

女川町支援活動 レポート

2014.03.15～ 2014.03.17

(宮城県牡鹿郡女川町 女川町復幸祭2014)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成26年4月20日(日)

東北応援団 白金支部

女川町 支援活動レポート

東日本大震災により、亡くなられた方のご冥福を、心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を、心からお祈り申し上げます。

1. はじめに

震災から三年が経ちました。女川町では災害復興住宅への最初の入居がはじまり、新しい生活をスタートされる方々がいる一方、まだ多くの方々が先の見えない仮設住宅での暮らしを強いられいらっしゃいます。町の中心地の再開は、来年の女川駅の再開を目指して進められています。震災の記憶として現在の位置に残そうという意見もあった、町の中心跡地に横倒しのまま残されていた「女川サプリメント」の建物は取り壊しが決まったそうです。一方、女川町の中学生の提案により、震災の教訓を1000年後まで伝えようと、町内各所に津波最高到達点を伝える石碑、「女川のいのちの石碑」の設置がはじまりました。前を向いて心にだけ留める事、後世に伝える事、新たな街づくりの為にいろいろな選択がなされています。

そして今年も「女川町復興祭」が開催されました。復興を幸せ、「復幸」と名付けたこのお祭りは、震災から2ヶ月後の2011年5月に、女川高校グラウンド(現在の「希望の鐘商店街」)で、女川の商工業者の方々が事業再開へ向けて始動していることを、被災された町民の方々に知ってもらい、希望を持ってもらいたいとの思いで、「おながわ復幸市！」として始められたイベントです。昨年の第二回目からは、ステージライブなども行われ、女川町内外からたくさんの方々が集まるイベントになりました。そして第三回目となる「女川町復興祭2014」も、さまざまなステージ、女川町の商工業者の方々によるブースをはじめとして、全国から応援に駆けつけた女川町の支援者による出店、ボランティアによる秋刀魚焼きなどで、大変賑やかなものとなりました。

東北応援団 白金支部は、イベント実行委員でもある「女川町復興サポート REALeYE」様にお声掛けいただき、イベントに出店参加いたしましたので、ご報告させていただきます。お声がけいただきまして、ありがとうございます。また、受け入れていただきました「女川町復興祭2014」実行委員会の皆様、ありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。



石碑は、女川町沿岸全集落に計21基設置予定



「女川町復興祭2014」出店エリアの様子

2. 活動報告

弊会としてはじめて参加させていただく「女川町復興祭」です。日曜日宿泊の為、月曜日休みが取れるメンバーでチームを組んでの活動となりました。

以下、活動について、報告させていただきます。

(1) 活動内容

- A. 活動日程 2014年3月15日(土)より3月17日(月)
- B. 目的地 女川町立中学校
- C. 活動内容 「女川町復興祭 2014」にブース出店
ホルモン焼き 300食分

(2) 活動レポート

2014年2月上旬

コンテナ村商店街で行われた「灯～TOMOSHIBI～」の点灯式への出店に引き続き、「REALeYE」さんより「女川町復興祭2014」へのボランティア協力の打診をいただきました。女川町のこれからの復興を願う私共として、一度はお邪魔したいと考えておりましたので、早速参加させていただきたい旨をお伝えしました。内容は、前回同様「ホルモン焼き」に決定です。前回もお世話になりました、芝大門の「ホルモン焼き夏冬」のご主人の加藤さんにお肉をまた分けていただけるようお願いをしました。

2014年3月11日(火)

東日本大震災から3年が経ちました。テレビでは朝から震災関連の報道が流されています。14時46分。日本中が祈りをささげます。被災を受けた地域で、この震災を経験された方々は、いろいろな思いでこの時間を迎えられたことと思います。3年という月日が経っても、色あせることない当時の記憶、大切な方々を一度に失ってしまった悲しみ。その地で震災を経験していない者にとって、その思いは、決して共有できるものではありません。ただ、静かに祈りをささげます。

「3月11日、あの日を忘れない為の集い」

以前より女川町を支援されている中村典弘さんが中心となり、東京・渋谷のイベントスペースにて「3月11日、あの日を忘れない為の集い」が、開催されました。震災から3年、被災した地域の現在についての情報交換をと共に、いろいろなアーティストの方々が有志で参加され、ステージでは歌やダンスが披露されました。また、この3月から活動を始められる「みんなで歌おう！プロジェクト」の発表も行われました。狭い仮設住宅、隣近所の方々に遠慮されてあまり大きな音も立てられない毎日を送っていらっしゃる方々を、仮設住宅の外の施設にお連れし、くつろいでいただきながら、ボイストレーニングをするというプログラムです。お腹の底から声をだし、レッスンを通して元気になっていただきたいという思いで始められるそうです。

また、このイベント会場にて、弊会を紹介するブースを置かせていただきました。会のプロフィール、活動のレポートなどを置き、手にとって見てくださる方へ、積極的に活動の説明をさせていただきました。

2014年3月15日(土)

9:00

お肉を調達していただいた、大門の「ホルモン焼き夏冬」に集合して、30キロのお肉の仕込みを行います。お店のご主人の加藤さんが、すぐに切り始められるよう、朝から準備して待っていただきました。タン、シロ、ハツ、レバー、ハラミ、ナンコツ、コブクロ…部位ごとに becoming お肉を食べやすい大きさに切っていきます。今回の参加メンバーの他、準備だけでも手伝いたいと来てくれた2名のメンバーのお陰で2時間もかからずにお肉の準備ができました。女性メンバー3名は先に電車で本日の宿泊先である、石巻市渡波を目指すことにしていた為、後から車で出発する男性2名にお肉を積んできてもらいました。



ホルモン焼き「夏冬」でお肉の準備です



食べやすいように一口大に切りました

12:30

この日は、宿泊場所近くの「牡蛎小屋 渡波」にお邪魔し、ご主人の寺岡さんと懇親会の予定で、「石巻駅」まで来ました。寺岡さんは、震災後すぐに支援の為に石巻市に入り、そのまま継続した支援をとこの地に移り住み、渡波に牡蛎小屋を立ち上げ、昨年は石巻の「石の森漫画館」そばにも2店目をオープンされています。女川町での活動の帰りなどに、牡蛎小屋に立ち寄らせていただくことはございましたが、改めて寺岡さんのお話をお伺いする機会をいただき、楽しみにしてお邪魔させていただきました。

お約束の午後6時までしばらく時間があつた為、石巻駅周辺を散策します。女川町への往復の際、石巻駅周辺を幾度も車で通り、津波の爪跡を目の当たりにしてきましたが、改めて3年経った今、こうして駅周辺を歩くと、商店の再開や新しいと思われる店舗の進出などが

みられましたが、震災前の様子は分かりませんが、明らかにシャッターの下りている店舗も多く見受けられました。そんな中、駅前から少しはずれたところに、「観慶丸本店」というクラフトを中心に販売するお店を見つけました。ガラス張りの店内は、ディスプレイもすっきりとまとめられておりました。石巻由来のものではない陶木や雑貨などが販売されていましたが、思わず手にして購入意欲が湧くものばかりでした。後から調べてみると「観慶丸本店」というお店で、江戸時代から続く石巻の陶器店でした。震災後、お店をリニューアルしてからは、積極的に全国から商品を取り寄せ、販売をされているようです。新しいことに取り組み、なんとか再建をとがんばっていらっしゃる方々が、ここ石巻にもたくさんいらっしゃいます。

18:30

営業時間の終わった「牡蠣小屋 渡波」に到着です。寺岡さんが笑顔で迎えてくださいました。炭火で焼いていただく牡蠣やホタテは格別ですが、この日は近隣のお寿司屋さんから出前も取ってくださり、たくさんの海の幸を堪能しながら、寺岡さんの石巻に対する、牡蠣に対するお考えをお伺いいたしました。

余り知られていませんが、牡蠣の「種かき」と呼ばれる稚貝の輸出量は宮城県が圧倒的で、広島の8倍を誇るそうです。そしてここ万石浦で育った種かきは、日本全国に出荷されているそうです。牡蠣といえば、石巻という地名がでてくるぐらいに、石巻の牡蠣の知名度を上げていきたい、そしてたくさんの牡蠣小屋が海岸沿いにオープンし、「三陸かき小屋街道」となり、全国からたくさんの牡蠣ファンが訪れてくれる魅力ある地域に育てたい、柔らかな語り口の寺岡さんですが、その思いは強く、大変熱いものを感じました。昨年の夏には、「三陸オイスターフェスティバル」がここ石巻で開催されており、イベントなどを通して知名度を上げる活動もされているそうです。



寺岡さんは熱く語り出す…



車で来たメンバーも合流、牡蠣やホタテを炭火でいただきます

2014年3月16日(日)

6:30

宿泊した石巻市渡波「サンファンパーク」内にある、「サンファンビレッジ」をあとにし、いよいよ女川町に入ります。曇り空のお天気で、冷え込みの厳しい早朝です。まずは「マルキチ阿部商店」さんの仮工場にお伺いし、お借りする焼き台をとりに伺いました。

7:30

会場の「女川町立中学校」に到着です。すでになんかいくつかのテントの設営が始まっており、あらかじめ決められていたブース位置を確認し、車を移動させ、荷物を下ろします。学校の敷地ということもあり、会場を汚さないようビニールシートを敷いてから設営を始めます。荷物を下ろした車は、コンテナ村商店街に向かい、早くよりお店を開けてくださった「相喜フルーツ」の相原さんにご挨拶をして、お願いしていた付け合せの玉葱、そして石巻のレンタル会社よりこちらに届けていただいたもう一台の焼き台を受取ります。

9:00

お声がけいただいた「REALeYE」さんにもご挨拶を済ませ、すべての準備が整い、焼き台に火を入れ玉葱やお肉を少しずつ焼き始めました。隣のブースは、震災とボランティアの経験から人と人をつなげる「結いつける」(結いつけるの宮城弁)ことを目的に、設立準備をされている「NPO法人ゆつけちゃ」さんで、販売されるやしそばのいい匂いがしてきました。もう一方のお隣は「岡清」さんです。加工商品を中心の販売をされながら、「たら汁」もこれから作られるとのこと、私達も出来上がりを楽しみに待つことにしました。

9:40

体育館の中のステージでは、「女川町復興祭2014」の開会が宣言されました。前日、東日本大震災を伝承する為のお祭りとして行われた、坂道を駆け上がるレースで、トップでゴールし「津波伝承 女川復興男」となった方が、ステージ脇に持ちこまれた「希望の鐘商店街」の

シンボルである鐘を鳴らし、ステージが華々しく始まりました。体育館の外では、無料配布の秋刀魚が焼き始められ、もくもくと煙がたちこちらには早々に人が並び始めているようです。

来場者も序々に増え、何名かのお客さんが私達のブースにも来て下さいました。始めは様子を見ながら焼いていたホルモン焼きですが、お肉を焼くペースをすこし上げていきます。



早朝からたくさんのスタッフで設営が進められます



応援団のブースもできあがりしました！

11:30

お昼を前にして、私達のブースにも人が並ぶようになりました。焼く手は休ませないようにしながらも、焼き上がりを待つくださる方々とお話をさせていただきました。ステージを彩るのアーティストの方々を目当てに県内外からいらした方や、町内の方、全国各地からいらしたボランティア参加の方々など、本当にたくさんの方が多方面からいらっやしている様でした。

嬉しいことに、昨年のコンテナ村商店街で行われたイルミネーション点灯式でこのホルモン焼きを食べたという方がいらして下さって、声をかけていただいたり、一度食べた方が美味しかったと、2度、3度と並んでくださったりしたお陰で、列が途切れることがなく、順調に売れていきます。そんな中、2月の女川町訪問活動でお邪魔した石浜地区にお住まいだった方や、毎年お邪魔している仮設住宅にお住まいのお母さんが顔をのぞかせてくれたりなど、嬉しい再会もたくさんありました。

13:30

朝からの曇り空でしたが、午後になり、ポツリポツリと来ていた雨が、一気に本降りとなりました。慌てて焼き台をテントの中のほうに入れ、食材も残り少なくなってきたので、残りの販売数分のお客様にはテントに入ってお待ちいただくことにしました。最後のお客様に無事にホルモン焼きをお渡しして、私共のブースでは終了時間前に完売となりました。



社会福祉協議会の矢竹さんが各ブースを宣伝して回ります



校舎前の広場が模擬店と飲食スペースです



宣伝部長のシーパルくん

15:30

序々に雨もやんできたので、一気に片付けを終え、撤収の時間まで空いた時間で少し他のブースも見て回りました。早々に売り切れ、撤収したブースもあったようですが、物販系のブースを中心にまだ開いているところを見てまわります。おなじみの「女川フィッシュ」を販売する「アウラ」さんのブース、「女川町観光協会」さんのブースでは、女川町のキャラクター「シーパルちゃん」を使った新商品のクッキーを

販売していました。

16:30

体育館では全てのステージが終り、実行委員会の方々がステージに上がり、実行委員長の阿部淳さん、女川町長の須田さんが、ステージを盛り上げた出演者の方々に、スタッフの方々に、そしてお祭りに来場くださった方々に感謝の意を述べられました。最後に餅まきが行われ、無事に閉会となりました。私達も「REALeYE」さんにご挨拶をし、会場を後にしました。

2014年3月17日(月)

2日目は華夕美に宿泊、名物の焼き秋刀魚を朝食にいただいて、宿を後にします。「蒲鉾本舗 高政」のお土産所「万石の里」、「マリンパル女川」に立ち寄り、女川町に別れを告げ、帰路は全員で車で東京を目指しました。平日ということもあり、渋滞もなく東京に到着いたしました。到着後は、関係各所に用具を返却し、解散となりました。

3. 活動を終えて

さんま収穫祭と並ぶ、女川町の大きな催し物となった「女川町復幸祭」に参加し、女川町の商工に携わる方々の前を向くエネルギーに改めて触れることができました。今後も女川町は須田町長を中心に、そして復幸祭の実行委員会を勤められた皆様と共に、復興、再建に向けて進んでいかれることと思います。

この度のイベントの売上金「60600円」は、来年の同イベント「女川町復幸祭2015」に寄付させていただいたことをご報告させていただきます。お買い上げいただきました来場者の皆様、ありがとうございました。

4. 団体名称変更に関して

弊会は平成26年4月より「東北被災地応援団 白金支部」から「東北応援団 白金支部」に団体名称を変更いたしました。今後とも弊会の活動に、ご理解、ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

5. 今後の予定

◆「活動報告会・女川町美味しいもの会」

【日程】 5月17日(土)

【場所】 白金フォーラム会議室

2013年度の活動報告、2014年度の活動計画を説明させていただきます。ご参加は、事前お申込み制をとらせていただいておりますので、ご興味のある方は弊会までご連絡ください。

◆6月女川町支援活動

【日程】 6月7日(土)～8日(日)

【場所】 針浜地区仮設住宅

昼食会(手巻き寿司)、ワークショップ(バスボムとアロマキャンドル作り)を予定しています。また、9月に予定している針浜地区仮設住宅にお住まいの方々を対象にした、日帰りバスツアーに関するアンケートを実施させていただきます。

5. 補足事項

(1) 参加者(敬称略/順不同)

川端 陽子	小澤 徹	近藤 尚之	平井 智子
三上 加寿子			

(2) 後方支援者(敬称略/順不同)

加藤 豊	安部 由美	後藤 奈津子	工藤 史大
------	-------	--------	-------

(3) 資材、食材等支援提供(敬称略/順不同)

マルキチ阿部商店(女川水産加工研究会)	ホルモン焼き夏冬	株式会社 ビー・エヌ・アイ
---------------------	----------	---------------

(4) 支援金寄付(敬称略/順不同)

ホルモン焼き夏冬	牧野 卓	野口 トシ子	加藤 聡
----------	------	--------	------

安部 由美

(5) 現地受け入れ先

宮城県女川町復興サポート REALeYE 様

女川町復興幸祭2014 実行委員会 様

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうえで、成り立っております。

本当にありがとうございました。

私達は、女川町への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。



平成26年4月20日(日)

東北応援団 白金支部

工藤 史大

★東北応援団 白金支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2012 Tohoku-Ouendan All Rights Reserved.